

## 2015年度 学校評価自己評価

### 1. めざす学校像

<p><b>大阪女学院の建学の精神</b> (ミッションステートメント/2009年9月15日制定)</p> <p>大阪女学院は 創造主を畏れ キリストの教えに従って 一人ひとりを愛し 何が重要であるかを見抜く力を養い 喜びをもって 進んで社会に仕える人を育む</p>	<p><b>大阪女学院が育もうとする学生・生徒像</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*キリスト教に基づく愛と奉仕を実践する人</li> <li>*自由な学びの中から、物事の本質を見つめ、自己の進路を選ぶことのできる人</li> <li>*英語力を基礎に幅広い教養と公正な判断力を身に付け、自律的・主体的に行動できる人</li> <li>*性別の役割にとらわれずあらゆる可能性に挑戦し、女性の尊厳の確立に努め、リーダーシップを発揮する人</li> <li>*社会の課題に関心を持ち、世界、日本、地域のために仕える人</li> </ul>
---	---

### 2. 中期的目標

<p><b>運営基本方針 (2014～2019年度/Ⅰ期及びⅡ期中期計画において)</b></p> <p>グローバル化の進展に伴う市場原理による競争主義の台頭により、我が国においては、経済をはじめとして社会のあらゆる分野における既存のシステムの変革が迫られている。さらに、「知識基盤社会」における「知」は容易に国境を越えるものであることから、グローバル化は教育と密接な関わりを持つことは論を待たない。大阪女学院は、このような環境変化に的確に対応するとともに、130年間にわたり育んできた精神を堅持し、2014年度から2019年度において、次の方針によって、健全な運営を創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*教職員の知恵と力を結集して、歴史と伝統に証される良き学校運営を継承する。</li> <li>*これまで育んできた学生・生徒像、人格を育む教育力、積み上げてきた教育・研究活動の成果を広く社会にアピールし、学生・生徒の安定的な確保に力を注ぐ。</li> <li>*本学の建学の精神を実現するために変化しなければならないことについては、強い決意をもって迅速な対応を行う。</li> </ul>	
---	--

### 2015年度事業計画より

<p><b>I. 建学の精神と教育理念の実践</b></p> <p>キリスト教学校教育同盟と連携しながら、激動の時代にあっても、自分の内面と向き合えるよう、宗教教育を行っていく。</p> <p><b>1. キリスト教に基づく人間理解の深化</b></p> <p>大阪女学院中学校・高等学校は女性が一人の人格として、何らかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をするを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力をもつ人間を育むことを目指す。宗教教育については、長年の実績を踏まえた上で、キリスト教に基づく人間理解を深め、一人ひとりがかげがえのない存在であることの自覚を促し、生徒自らの生き方と他者とのかかわり方を学ばせる。また、入学後、保護者に対しても、学校への理解を深めてもらえるよう努める。</p> <p><b>2. 建学の精神の再認識と再構築</b></p> <p>本校が女子校として建学されたことの中にある精神を再認識し、教育理念を確認しつつ、現代に生きる女子のための教育の充実に努める。</p> <p><b>II. 教育の内容と学習支援の充実</b></p> <p><b>1. 学力向上の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習し、成長を続けていく「真の学力」ー学力、協調性、人権意識、規範意識、国際性ーの習得を目指す。</li> <li>・自学自習できる主体性と学力を身につけるための自己管理能力の養成。</li> </ul> <p><b>(1)新しい学力観への対応</b></p> <p>学力についての考え方が「思考力・判断力・表現力」及び「意欲・経験・多様性」を重視する方向に大きく転換していく現代、本校が従来から行ってきた国際的な視野と主体性を育てる教育活動をさらに進めていく。また、他校(海外を含む)の先進的な教育活動を研究し、導入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. シラバスの検討・改善 b. 自学自習、自己管理能力を身につける指導 c. ボトムアップに加え、実力錬成プログラムの充実</li> </ul> <p><b>(2)英語科、英語教科としての英語改革</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 高2英語科対象エンパワーメント授業の実施 b. 英語外部検定取得の体制づくり c. 横断型授業の模索 d. ネイティブ講師による英会話授業の発展</li> </ul> <p><b>(3)「国際特別入試制度」(中学2015年度より)の継続と発展</b></p> <p>入試広報に努め、また、この制度による入学生の学習プログラムの整備を進め、国際理解教育を推進する。</p> <p><b>2. 国際理解教育の推進</b></p> <p>留学や留学生との交流を通じ、言語への関心を深め、言語や文化の違いを知ることで、世界に目を向け、広い視野をもって物事を考える生徒を育てる。YFUの年間留学生受け入れに加え、オーストラリアのRavenswood校(姉妹校)との交換留学、カナダのオタワにあるLongfield Davidson校(姉妹提携校)、YFU韓国からの短期交換留学(1ヶ月)との交流を通して、国際(異文化)理解に取り組む。また、交換留学制度を利用して、留学を希望する生徒の支援をしていく。</p> <p><b>3. 生徒・教員の人権意識を深める取り組み、生徒の心身の健康と安全を守るための生活指導と生徒支援</b></p> <p>人間関係を構築する力の育成ールール遵守、マナー・礼儀の尊重、コミュニケーションによる他者理解ーに努める。</p> <p>SNSを利用するための知識、メディアリテラシーについて適切に学ぶ。</p> <p><b>4. 学校行事による集団づくり</b> さまざまな行事への生徒の主体的な関わりにより、集団の中で自他を活かして協調性、創造性を育む。</p> <p><b>III. 教育の実施体制の改善</b></p> <p><b>1. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み</b> 受験希望者、保護者への広報活動、募集活動を強化し、受験生増を目指す。</p> <p>(1)広報の充実 (2)説明会・学校訪問への全教員での取り組み (3)入試対策室の充実</p> <p><b>2. 中学・高校としての図書館機能の充実と教員との連携</b> (1)蔵書整備 (2)利用教育 (3)教員との連携</p> <p>(4)図書委員会活動 読書感想文コンクール、文化祭発表、他校図書委員との交流会実施など活動を支援する。また、選書、展示企画などへの協力を得る。</p> <p>(5)その他 タブレット端末を活用した授業の推進計画に対して必要な環境整備を検討する。</p> <p><b>3. 中学・高校教員の組織力アップ</b></p> <p>(1)建学の精神の学び (2)世界の変化や課題についての学び (3)支え合う組織づくり (4)他校との連携 (5)新しい学力観への対応 (6)大阪女学院大学・短大との連携</p> <p><b>4. ICT教育の推進</b> ICT技術を、今後の探究型、横断型授業に活かしていくことができるように研究する。</p> <p><b>5. 中学・高校教務のシステムの統一と展望</b> 中高の教務システムの改善に継続的に取り組む。</p> <p><b>IV. 生徒支援</b> 生徒の自己実現を促す進路指導</p> <p>(1)進路キャリアガイダンスの充実 (2)基本的学習習慣の確立(OJダイアリー・ビッグシスター制度) (3)英語外部検定への対応 (4)新しい大学入試への対応 (5)併設大学・短大の特色を活かした進路指導 (6)協定高推薦枠の拡大</p> <p><b>V. 危機管理</b></p> <p><b>1. いじめ、キャンパスハラスメントの防止と対応</b></p> <p>いじめ、キャンパスハラスメント防止への積極的な取り組み</p> <p><b>2. 地震をはじめ防災への取り組み</b></p> <p>危険と危機、管理を区別し、事前・事後の対応について検討、緊急時における決定権順位の再確認を含め、文書化を目指す。</p> <p><b>VI. 教員の労務環境改善</b></p> <p>1週1日の研修日を継続(2日目)をはじめ、教員の多忙を緩和し、働きやすい職場にしていくよう努力する。</p>	
---	--

【自己評価アンケートの結果と分析】

自己評価アンケートの結果と分析		
○生徒 [2015年12月実施]	○保護者 [2015年12月実施]	○教職員 [2016年 2月実施]
生徒	保護者	教職員
<p><b>宗教教育・解放(人権)教育について</b></p> <p>宗教教育については、肯定的な回答率には、これまでの傾向と変わらず、程度の差はあれ、中2で停滞または落ち込みが見えるが、学年が上がるにつれて本校の目指す教育目標を理解し、キリスト教的な考え方を身につけていくことがわかる。</p> <p>解放(人権)教育についても、宗教教育とほぼ同じ経過をたどるが、以前の生徒よりも、中2での反発は小さくなり、中2でも僅かな上昇傾向のまま、肯定的な回答率が推移している学年が多くなってきた。人権についてメディアで取り上げられることも多くなり、平和や貧困、格差や差別事象について学ぶことは、特別なことというより、身近で当然のことだと感じるようになっていとも考えられる。高3までの3～6年間で、どの学年も各々の個性や人格を尊重し合い、解放教育プログラムに掲げる社会的なテーマにも関心、理解を徐々に深めている。</p>	<p>保護者アンケート提出率は、50～90%と学年、クラスによってばらつきがあるが、高校生の保護者の方が提出率は低くなる傾向にあり、保護者の学校生活への見守りの姿勢の変化が伺える。</p> <p>課題の多い項目については、保護者のご支援に感謝しつつ、一歩ずつニーズに応える努力を行っていききたい。</p> <p><b>本校に入学したことについて、全学年の93%の保護者が肯定的回答をくださった。学校の教育方針も88%以上の保護者に理解されているという結果が出ている。</b></p> <p>本校のキリスト教教育が、生徒の日々の学校生活や行事、PTA(本校ではヘル会と呼ぶ)活動を通して保護者によく理解されていることは本校の教育の大きな強みである。キリスト教教育を土台とした本校の教育方針が、生徒の人格形成、生涯にわたる学びの礎となっていることが認知されているということは、生徒を教育する上で最も重要な点で、教職員と保護者が一致して、生徒の人格教育にあたっているということであり、これが本校の教育の最も大きな特徴である。</p> <p><b>ニーズにあった教育活動、また教職員の熱意については、肯定的な回答が84%を超えるものであった。</b></p> <p>教育活動、学校行事、生徒会活動、クラブ活動については、肯定的な回答が80%を超えた。特に学校行事、生徒会活動、クラブ活動についての満足度は高い。クラブ・行事の学習との両立は常に課題としてあるが、全人的な成長のために、これらの果たす役割はとても大きく、生徒主体、協力して一つのことを継続し達成していく活動をこれからも大切にしていきたい。これらは、一貫教育の中で、学習や進路選択へのモチベーションアップに確かに繋がっている。</p> <p><b>教育環境、施設設備の整備についても91%の保護者から肯定的回答をいただいた。</b></p> <p>庭の草花、木々は、創立から132年大切にしてきた重要な教育環境であるが、ここ数年は、マルチメディア3教室(コンピュータ教室)の整備、すべてのHRに順次設置している電子黒板、要支援生徒のためのサポートルームの整備、緊急地震速報装置の整備、図書館棟の耐震、調理、被服実習室の改装、体育館の耐震と生徒食堂の改装等、授業、課外活動のための環境整備を進めてきた。これらの環境が授業、課外活動、日々の学校生活に実質的に生かされ、成果が上がっていることを実感する。</p>	<p>教職員への自己評価アンケートは、下記の表「<b>3. 本年度の取り組み内容および自己評価</b>」における「評価指標」に基づいて行った。前年度との比較を行う主旨から、中期計画の項目とアンケート項目は、完全には一致していない。</p> <p>また、分析は肯定的回答のパーセンテージを確認しながら進めたが、教職員の回答は、どの項目についても「思う」よりも「やや思う」のパーセンテージが高い傾向にあり、掲げている課題への道は険しく、教職員が現状に満足せず、まだまだ高いところを目指している途上であることがわかる。</p> <p><b>I 建学の精神と教育理念の実践</b>  <b>I 時代の求めに応じた宗教教育の推進/建学の精神の再認識と再構築</b></p> <p>キリスト教教育による人格形成、生涯学習の土台の形成について、肯定的な回答は93%を超える。教職員は、この項目について、かなりはっきりとした一致を見て教育にあたっていることがわかる。さらなる発展を目指したい。</p> <p><b>II 教育の内容と学習支援の充実</b>  <b>学力向上</b> 中高6年間を見通して、基礎学力の定着をさせること、加えて改革される大学入試に対応するカリキュラムを作り上げるよう各教科で努力した。その上で各々の授業計画、指導目標を立て、授業を行った。「目標を明確にできたと思う」と肯定的回答を寄せた教員が76%であり、昨年と大きな変化はない。世代交代が行われる中、6年一貫の授業計画を立てることは、難しいことだが、教員間で研究授業等を含め、相談し合いながら、発展させていきたい。</p> <p>一方で、「1年間で生徒の学力(学力推移、スタディーサポート等を参考に)は上昇したと思うか」との間についてのポイントは、昨年の39%から59%と20ポイント上昇した。教科や学年におけるこれらの試験への新しい取り組みの成果であろう。</p> <p><b>自己管理</b> 昨今の生徒の現状から、学力向上を目指すため、スケジュール等の自己管理能力の養成は必須であると考え、中学生からこの課題の指導に力を入れてきた。自主学习時間は7日目、OJダイアリーは3日目となった。「自己管理能力の向上」についての教員アンケートの結果は、高校生への回答も、中学生への回答も、肯定的回答は残念ながらも約10ポイント下がっている。情報の溢れる中、自分に必要な情報を適切に取り込み、スケジュールを立てて、自分の生活を管理していくことは、年々難しくなっているようである。SNSをはじめ、次から次に配信される情報に振り回されることなく、時間を有効に使うためには、具体的な指導教材、方法が必要である。</p> <p><b>授業・補習内容の充実</b> 高校生の希望者補習(水曜・土曜講座)、自習用講座(BB講座)の成果についての20ポイント下降は、衝撃的である。希望者の継続出席、設定科目、教員とのマッチング等、今後見直しが必要である。</p> <p>一方で分割授業、習熟度別授業については、肯定的な回答は、前年度から10ポイント上昇した。分割のあり方の変更、担当者の工夫、努力により、良い方向に向かっていると考えられる。</p> <p>また、電子黒板や、MM(マルチメディア)教室の利用については10ポイント下降し、今年度は新しい取り組みがあまりなかったことを示している。さまざまな教科の授業に活用していくため、環境整備も課題である。</p> <p><b>新しい学力観・大学入試改革への対応</b> 上記課題について、教科、学年で話し合い、準備の進捗状況については、約40%の教員が肯定的回答を寄せているが、まだ始まったばかりであり、今後は学校全体としての取り組みとしていきたい。また英語の外部検定受験への働きかけについては肯定的回答52%、協定校推薦制度の進路保障の意義については70%の教員が肯定的回答を寄せている。今後も具体的な提案を行い、教員全員で進めていきたい。</p> <p><b>英語科・英語教科の改革</b> 本年度から実施の「英語科高2生徒全員を対象としたエンパワーメント授業について」、また「外部検定目標への取り組みについて」の肯定的回答は66%、「国際特別入試制度及びその制度による入学生の課外授業の成果についての肯定的回答は約62%であった。本校の教育により影響があったと考えられる。</p> <p><b>生徒の生活全般に対する指導</b> SNSの利用については、「生徒への適切な指導について」は昨年と同様、肯定的回答は45%であったが、「保護者の理解と協力を得られたかについて」15ポイント上昇し、56.8%であった。保護者向け講演会やメディアによる情報により、保護者の意識も高くなり、危機感も強くなっている。日々の教員の取り組みにより、保護者との連携が深まっていると考えられる。</p> <p>服装、身だしなみ、挨拶、公共のマナーの指導について、どれも肯定的回答のポイントは下がっており、取り組みが不足しているという結果が出ている。生活指導委員会を中心に地道に取り組んでいきたい。</p>
<p><b>生活指導について</b></p> <p>「本当の自由」「社会のルールや公共のマナー」については、中学生は自己コントロールができていくところもあり、一時期、肯定的回答が70%台で推移する学年もあるが、高校生になると、ある程度自分を律することができるようになり、肯定的回答率が85～95%まで上がって安定してくる。</p> <p>また、「基本的生活習慣(遅刻、片付け、身だしなみなど)」は、中学の時から比較的高い85%以上で推移する。学校、家庭の両方での細やかな指導が成果を上げている。ただ、挨拶の取り組みは、中1の時から、おしなべて下降線をたどる。昨年から少し改善が見られるが、高3以外は70%台を推移し、来年度もさらに取り組みの工夫、継続が必要である。</p>		
<p><b>学校行事について</b></p> <p>学校行事については、今年度も、生徒会主催の行事、学年ごとの行事、ともに6学年はほぼ90%以上の生徒が、「生徒同士のつながりを深めるために有意義である」と答えている。卒業を控えた高3生徒の肯定的回答率は97%を超えており、最終的な生徒の行事への満足度は大変高いことがわかる。これは、生徒が主体的に行事を運営し、かつ参加していることによる成果である。</p>		
<p><b>学校生活について</b></p> <p>「楽しく充実している」については、ほぼ90%以上「クラブ活動が活発である」という項目については、ほぼ85%以上の肯定的回答が得られた。一方、生徒からの相談に対する教員の姿勢、学校生活への教員の指導の姿勢については50%～80%台まで学年によってばらつきがあるが、中2以外は、昨年よりは上昇の傾向である。この項目については、中2の学年でどの学年も一度落ち込み、高校生になって回復、上昇する傾向が強い。生徒たちが、中2で一度、大人に対する反抗期を迎えて壁にぶつかり、やがて、教員とのコミュニケーションや信頼が、少しずつ構築されていくと考えることができる。</p>		

<p><b>進路指導について</b></p> <p>中2から中3にかけて、どの学年も高校のコース選択をきっかけに、進路についてよく考えるようになっていくようだが、高1で少し気が緩み、また、高2になって真剣に考えるようになる傾向がある。高3になってからは、現実と理想の間で、自分のコース選択がこれで良かったか検証しはじめるためか、少し肯定的回答率が下がる。ただ、「卒業後の進路に向けて」の項目では、学年が上がるにつれて、急カーブで肯定的回答率が伸びていくことから、自分のコース選択は正しかったか、迷いながらも精一杯将来のことを考えて進んで行こうとする生徒たちの懸念さが伝わってくる結果である。</p>	<p><b>家庭への連絡、情報提供については、ここまでの質問に比べて肯定的回答は76%とやや低くなる。数字の上では昨年度からの改善が見られない。</b></p> <p>本校での保護者への連絡は、基本的には生徒に持ち帰らせるプリント類である。行事や、クラブ等についての情報提供としては、学年、学級通信、H.P.のクローズドサイト等がある。緊急時はNTTコミュニケーションズのFairCastを利用している。</p> <p>この結果から考えられることの一つは、保護者宛のプリント類が、生徒から適切に手渡されていない可能性があること。二つ目は、思春期の子どもたちの学校生活に対して、保護者としては心配が多く、学校からの細かな情報提供を求めておられるということである。おそらく、行事や予定等の連絡はもちろんであるが、我が子の学習状況やクラス、クラブ活動の様子などを知っておきたいという思である。学校での様子を全く話さなくなる子どももいる中で、保護者の気持ちとして共感できる。</p> <p>また、個別に対応が必要な生徒に対する連絡や手当について、教科担当と担任の細やかな連携が必要だが、行き届いたサポートを行うには課題も多い。保護者と協力してその生徒に必要なサポートに努めたい。</p> <p>学校としては、配布したプリント類は、クローズドサイトにその都度アップすることとし、また、必要な情報はH.P.や学年、学級通信を利用して提供していきたい。保護者にも、できる限り子どもとの対話を心がけていただきつつ、心配なことについては、学校に連絡をいただき、連携して見守るように今後も努めていきたい。</p>	<p><b>留学への取り組みの充実</b> 留学については、留学生の受け入れ、本校から送り出す留学生の学びの成果ともに充実しており、留学を希望する生徒へのサポート体制も整っているという教職員の認識（どの項目も90%以上）である。この分野については、今後更にニーズが多様化し、卒業後の進路にも直結していくことから、情報収集と研究の継続が必要である。</p> <p><b>教職員の人権意識の向上・要支援生徒へのサポート</b> 学校、学年の人権プログラム、支援教育（長期欠席、不登校傾向等の生徒への指導）について、肯定的回答はどれも75%～80%で、充実していると感じている教職員が多い。ただし「やや思う」のパーセンテージがかなり高く、昨年度より、やや下降気味なところが気になるところである。</p> <p>また、今年は新しく教員間のコミュニケーションについての問を入れた。60%の教員が肯定的回答を行った。多忙な中で、コミュニケーションを密に取ることが難しい現状であるが、大切な課題である。</p>
<p><b>国際教育について</b></p> <p>留学生との交流についてはアンケートを実施した高校全学年で85%を超える肯定的回答を得ている。また、高1で行う海外研修の意義については、90%を超える肯定的回答を得ている。学年の約1/3約100人が参加するこの研修について、参加しなかった生徒も、友人の体験や話を通じて意義深いという実感を得ていることがわかる。</p>	<p><b>PTA（へール会）活動について、保護者の93%から肯定的回答を得た。昨年度より2ポイントアップしている。</b></p> <p>本校はPTAを創立者の名前をとってへール会と呼んでいる。へール会の役員(本部委員・運営委員・学級委員)は、担任をはじめ教職員と協力して、互いの親睦をはかりつつ、学校の多くの活動に協力してくださっている。中高6学年の保護者有志、教職員約200名が集う年2回(夏・クリスマス)の親睦会、私学助成のための署名活動は保護者全員にご協力をいただいている。また、発足して6年になるお父様の会ウエルミナ・メンズクラブ(WMC)の会員も少しずつ増え、へール会への父親の関心も高まり、行事への参加者も年々増えている。</p> <p>また本部役員の方々には、校外で行う学校説明会(evening説明会)において、保護者の立場から学校の紹介をしていただく形でご協力をいただくなど、多岐にわたって支援していただいている。</p>	<p><b>III教育の実施体制の改善</b></p> <p><b>募集・広報活動</b> 「本校の特色を活かした取り組みを提案、アピールできているか」「本校の広報活動、募集対策は適切か」「募集・広報に積極的に関わることができたか」の各項目について、肯定的回答率は昨年度は75%～83%であったが、今年度は52%～64%と、大きく下降している。教職員の意識は高まり、広報活動への協力も得られているという認識だが、20ポイントの下降は、そのまま、時代の厳しさ、教職員の不安を物語っているようである。本校の教育を進めていくために互いに意見を交わし合い、課題を共有し、本校の魅力を受験生に伝えていきたい。</p> <p><b>図書館活動</b> 約17万冊の蔵書を誇る本校図書館は、中高大短が利用する充実した図書館である。専門知識を持つ司書(専任を含め6名)が、手厚く利用のサポートをしつづける。生徒の豊かな学びに貢献している。教職員の図書館の活用については、まだまだ研究の余地がある。またシステムやサービスの問題ではなく、教職員が多忙で、図書館を利用するゆとりがない現実も推察される。</p>
<p><b>授業評価について</b></p> <p>どの項目についての回答も、昨年度からは少しずつ改善が見られた。A「教員の授業内容への年間計画」、B「授業のわかりやすさ」、C「クラスに一体感を生み出す指導」、D「興味、関心を引き出す工夫」についての肯定的回答は、中学、高校の平均で63%～85%までの開きがあり、すべてについて高校生の方が少しずつ高い結果が出ている。特に、D「興味、関心を引き出す工夫」についての肯定的回答率は、中学生を高校生が10ポイント上回り、授業に対するモチベーションは、高校生の方が高ことがわかる。E「集中して授業を受けているか」についても、中学生76.4%、高校生が82.6%で、高校生がやや高いが、この集中力の絶対値を上げていく工夫こそが今後の課題である。</p> <p>各教員の授業評価は、個別に知らせているが、同じ教科、同じ学年を何クラスか担当している教員の評価が、クラスによってかなり差がある(特に中学生)ことから、教員と生徒の関係づくりが、授業成果に直結していること、また教員の声かけ、発問一つでその教科への生徒の興味や意欲が喚起されることが確認できる。</p>	<p><b>IV生徒支援</b></p> <p><b>進路指導の取り組み</b> 中学1～高校3年まで各学年での進路プログラムは生徒のモチベーションアップに大いに役立っている(肯定的回答88.6%)、高校3年生の大学入試直前のプログラムについては、肯定的回答67.4%、大阪女学院大学、短大との連携については25%と、どちらも昨年度より10ポイント近く下降している。大学短大のユニークで優れたカリキュラムに魅力を感じて、進学先の候補に入れる生徒も増えている中、入試情報等の共有等に細やかな連携が求められている。これからも力を入れていきたい。</p>	<p><b>教職員の研修プログラム</b> 本校新任教員対象研修「チームOJ」、キリスト教学校教育同盟の中堅者研修、カウンセリング研究会のプログラムについては、役立っていると感じている教職員は半数をやや下回る結果となった。これは、プログラムそのものの課題もさることながら、多忙を極める現状の中で、実際にこれらの研修会に参加することもままならない実情も大きく影響した結果であると考えられる。学内の取り組み、また本校を会場にしたキリスト教学校教育同盟のプログラムへの参加等をこれからも呼びかけ、教員の学ぶ機会を保障するように考えていきたい。</p>
<p><b>V学校危機管理</b></p> <p><b>危機管理の強化について</b> 生徒・保護者・教職員からのハラスメント(体罰を含む)についてのアンケートを実施し、上ってきた事象について対応を続けていることもあり、ハラスメント防止のための取り組みについては、68%以上の教員が肯定的回答を寄せている。(ハラスメント委員会の機能については、57%)アンケートの対応にあたる相談委員(教職員の互選)の立場の難しさが推察される。生徒と教職員自身の心身の健康、命を守るための重要な取り組みとして位置づけていきたい。</p> <p>「地震をはじめ防災への取り組みについて」は少しずつ進めているが、避難時の備蓄、地域との連携等まだまだ多くの課題があり、計画途上である。今年度は、体育館の耐震補強工事が完成したこともあり、肯定的回答は16ポイントアップとなった。</p> <p><b>VI教員の労働環境改善</b></p> <p>1週1日の研修日等労働環境の改善については、肯定的回答は47.7%、今後も教員が、教育のために研鑽を積むゆとりが少しでも持てるよう、労働環境について改善をめざしたい。</p>	<p>また、個別に対応が必要な生徒に対する連絡や手当について、教科担当と担任の細やかな連携が必要だが、行き届いたサポートを行うには課題も多い。保護者と協力してその生徒に必要なサポートに努めたい。</p> <p>学校としては、配布したプリント類は、クローズドサイトにその都度アップすることとし、また、必要な情報はH.P.や学年、学級通信を利用して提供していきたい。保護者にも、できる限り子どもとの対話を心がけていただきつつ、心配なことについては、学校に連絡をいただき、連携して見守るように今後も努めていきたい。</p>	<p><b>V学校危機管理</b></p> <p><b>危機管理の強化について</b> 生徒・保護者・教職員からのハラスメント(体罰を含む)についてのアンケートを実施し、上ってきた事象について対応を続けていることもあり、ハラスメント防止のための取り組みについては、68%以上の教員が肯定的回答を寄せている。(ハラスメント委員会の機能については、57%)アンケートの対応にあたる相談委員(教職員の互選)の立場の難しさが推察される。生徒と教職員自身の心身の健康、命を守るための重要な取り組みとして位置づけていきたい。</p> <p>「地震をはじめ防災への取り組みについて」は少しずつ進めているが、避難時の備蓄、地域との連携等まだまだ多くの課題があり、計画途上である。今年度は、体育館の耐震補強工事が完成したこともあり、肯定的回答は16ポイントアップとなった。</p> <p><b>VI教員の労働環境改善</b></p> <p>1週1日の研修日等労働環境の改善については、肯定的回答は47.7%、今後も教員が、教育のために研鑽を積むゆとりが少しでも持てるよう、労働環境について改善をめざしたい。</p>

3. 本年度の取り組み内容および自己評価

	重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標  *通し番号は教職員アンケートの番号 中期計画の項目順とちがっているため、 一部順番に入れ替わりがあります。	自己評価
I. 建学の精神と教育理念の実践	<p>時代の求めに応じた宗教教育の推進</p> <p>建学の精神の再認識と再構築</p>	<p>時代に追従せず、かつ時代に求められている宗教教育、「愛と奉仕」の実践を行う。</p> <p>日々の礼拝、宗教行事、クラブ活動、有志による施設訪問、ボランティアの継続。</p> <p>・被災者支援の会による東北ボランティアキャラバン(2015年度からは年1回夏)、東北支援物販(文化祭等)、追悼礼拝の継続</p> <p>・日本国際飢餓対策機構、ワールドビジョンの行っている里子支援への協力</p> <p>・釜が崎での「炊き出し」への参加</p> <p>社会的な男女の役割意識にとらわれることなく、各々の特性を伸ばし、生涯学ぶ力を育てる。</p>	<p>1. 礼拝、宗教行事等、キリスト教教育全般を通して「愛と奉仕」の精神をもって、互いの個性を尊重し合い、自分自身の生き方を考えるよう導いているか。</p>	<p>本校の精神の土台であるキリスト教教育については、132年の伝統の中で生徒、保護者の理解と協力を得て、教職員の明確な意識のもとに「<u>生き抜く力</u>」「<u>愛と奉仕の精神</u>」を養うという<u>人格教育として成果を上げている</u>と自負する。</p> <p><u>自分に与えられた力を、自分のみではなく、他の人に用いるために学ぶ意識が生徒に育っている。</u> <u>女子校という環境を最大限に活かした教育実践を行っている。</u></p> <p>1. 性別にとらわれることなく、関心のある事柄について、自由に挑戦できる環境である。</p> <p>2. 自分らしく主体的に学び、自分の言動や進路を積極的に選ぶとることができる環境である。</p>
II. 教育の内容と学習支援の充実	<p>学力向上</p> <p>自己管理</p> <p>授業・補習内容の充実</p> <p>大学入試改革への対応</p> <p>英語科の改革</p>	<p>1. 学力向上の取り組み</p> <p>・生涯学習し、成長を続けていく「真の学力」ー学力、協調性、人権意識、規範意識、国際性ーの習得を目指す。</p> <p>・自学自習できる主体性と学力を身につけるための自己管理能力の養成</p> <p>(1)新しい学力観への対応</p> <p>学力についての考え方が「思考力・判断力・表現力」及び「意欲・経験・多様性」を重視する方向に大きく転換していく現代、本校が従来から行ってきた国際的な視野と主体性を育てる教育活動をさらに進めていく。また、他校(海外を含む)の先進的な教育活動を研究し、導入する。</p> <p>a. シラバスの検討・改善</p> <p>b. 自学自習、自己管理能力を身につける指導</p> <p>c. ボトムアップ、実力錬成のプログラムの充実</p> <p>(2)英語科、英語教科としての英語改革</p> <p>a. 高2英語科対象エンパワーメント授業の実施</p> <p>b. 英語外部検定取得の体制づくり</p> <p>c. 横断型授業の模索</p> <p>d. ネイティブ講師による英会話の授業の発展</p> <p>(3)「国際特別入試制度」の継続と発展(中学2015年度より)</p> <p>入試広報に努め、入学後の学習プログラムの整備を進め、国際理解教育を推進する。</p>	<p>2. 中高6年間の指導目標を明確にして指導できたか。</p> <p>3. 1年間で学力推移調査、またはスタディーサポート等の生徒の偏差値は 上昇したか。</p> <p>4. 生徒の自学自習、自己管理の力は向上したか。(高校)</p> <p>5. 自主学習時間、OJダイアリーの利用の継続により、生徒の自己管理の力は向上したか。(中学)</p> <p>6. BB講座、土曜講座、水曜講座によって、生徒の学習が充実したものになったか。</p> <p>7. 分割授業、習熟度別授業による成果はあったか。</p> <p>8. 授業において、電子黒板、プロジェクター、MM 教室等の利用が進んだか。</p> <p>9. ビッグシスター制度による放課後の学習プログラムは成果を上げていると思うか。</p> <p>10. 今後の国公立入試等の改革、探究型・合科型学習に向けて、学年や教科での話し合い、準備は進められたか。</p> <p>11. 大学入試の外部検定利用に向けて、生徒たちが英検、TOEIC 等、外部検定を受験できるように、学校としての学年、教科、クラブ等への働きかけは十分にできているか。</p> <p>12. 現在の協定校推薦制度は、生徒の進路指導、進路保障のために十分に活用されていると思うか。</p> <p>13. 本年度、英語科改革(高2エンパワーメント授業、授業改革、外部検定目標達成等)について成果はあったと思うか。</p> <p>14. 国際特別入試制度、及び国際特別入試による入学生の週1回の課外授業について、国際理解教育のために成果を上げていると思うか。</p>	<p>「自由」に基づく自己管理の力を育てるため、中学生ではスケジュール管理のための「OJダイアリー」「自主学習時間」の取り組みを続けている。また、高校生にも有志参加の補習、講座を提供してきた。<u>一定の成果は見られるものの、情報の氾濫や、SNSの広がりによる影響に、指導方法や家庭での対応、生徒の主体性や事故コントロールの力が追いついていない感がある。</u><u>生徒全体への成果が上がるまでには、工夫と根気が必要である。</u>自己管理力は、「自由」を掲げる本校にとっては特に重要な力である。忍耐強く生徒とともに継続して取り組んで行きたい。</p> <p>学習に関わる環境、施設整備については、重要課題として取り組みを続けている。<u>電子黒板、MM教室については利用する教科が固定している状態であり、分割授業、習熟度授業については、教科によっては成果をあげつつあるようだ。</u>各教科を中心に、学年、学力検討委員会等様々な単位で検討を重ね、現在の生徒に合った授業形態を工夫していきたい。</p> <p>2021年度大学入試に向けて、改革が続いていく。困難も多いが、探究型、横断型のトータルな学力、を身につける方向に教育が進んで行くのは望ましいことである。本校では、数年先に英語科のコースとして、世界的に評価の高い国際教育のディプロマプログラムの導入を検討しており、そのため教員研修や、カリキュラム作成、評価をはじめとしたさまざまな体制づくりが、全教科、全授業の探究型、横断型授業の実現に自ずと繋がっていくと考えている。</p> <p>本校では、中学から4技能を鍛える英語教科の充実した学習行っているが、<u>2015年度より高校2年生英語科生徒を対象としたエンパワーメントプログラムを実施し、成果を上げている。</u><u>受験生に対しては国際特別入試(中学)とその後の国際教育プログラムを続けている。</u><u>着実な成果を上げている。</u> <u>外部検定に対応した希望者対象の土曜講座を開講している。</u><u>意欲的に取り組む生徒は成果を上げている。</u>中学、高校1年からの検定受験、資格取得を今まで以上に呼びかけていきたい。</p> <p>関西学院大・同志社女子大・神戸女学院大との協</p>

	<p><b>留学の実践</b></p> <p><b>2. 国際理解教育の推進</b>          留学や留学生との交流を通じ、言語への関心を深め、言語や文化の違いを知ることで、世界に目を向け、広い視野をもって物事を考える生徒を育てる。          YFUの年間留学生受け入れに加え、オーストラリアのRavenswood校(姉妹校)との交換留学、カナダのオタワにあるLongfield Davidson校(姉妹提携校)、YFU韓国からの短期交換留学(1ヶ月)との交流を通して、国際(異文化)理解に取り組む。また、交換留学制度を利用して、留学を希望する生徒の支援をしていく。</p> <p><b>3. 生徒・教員の人権意識を深める取り組み</b>  <b>生徒の心身の健康と安全を守るための生活指導</b>          人間関係を構築する力の育成・ルールの遵守、マナー・礼儀の尊重、コミュニケーションによる他者理解          SNSを利用するための知識、メディアリテラシーについて適切に学ぶ。</p> <p><b>4. 学校行事による集団づくり</b></p>	<p>(中期計画の項目順で記載しています)</p> <p>20. 留学生の受け入れにより、充実した交流ができたと思うか。</p> <p>21. 本校から留学した生徒は、留学の成果を上げることができたと思うか。</p> <p>22. 留学を希望する本校生徒に対して、適切なサポートができていますか。</p> <p>15. SNSの利用について、生徒に必要な指導ができたと思うか。</p> <p>16. SNSの利用について、保護者に理解と協力が得られたと思うか。</p> <p>17. 服装、身だしなみの指導は適切だと思えるか。</p> <p>18. あいさつについての指導は適切だと思えるか。</p> <p>19. 公共のマナーについての指導は適切だと思えるか。</p> <p>23. 学年、学校の人権教育のプログラムは、時代の変化に対応し、充実していると思うか。</p> <p>24. 長期欠席、不登校傾向等の要支援生徒への支援は適切であったと思うか。</p> <p>25. いじめ等の事象の発生を未然に防ぐため、意識的に取り組めたと思うか。</p> <p>26. さまざまな課題について、教員間でコミュニケーションを取り合い助け合って取り組むことができたと思うか。</p>	<p>定款推薦制度は、より魅力ある制度として、生徒たちの進路保障に役立っている。同時に、高校在学中にかなり高い英語力が求められる現実がある。</p> <p>留学生の受け入れについてもYFUの年間留学生1名他、中期、短期数名の受け入れにより、よい交流が表現している。  <u>留学については、高校1年生から短期、中期、長期、さまざまなプログラムが設けられており、生徒、保護者からも評価を得ている。</u>時代のニーズが高まる中で、より実質的な内容をともなったものにするべく努力を行う。          近年は、<u>外国への進学が注目されている。</u></p> <p>SNSの利用指導は、喫緊の対応を迫られている課題である。<u>一昨年度より、積極的に生徒、保護者、教職員対象に学習会を行ってきた。保護者自身の意識が少しずつ高まり、危機感をもたれるようになってきたため、家庭での管理の必要性は理解されてきたように思う。</u>しかし、進化していくSNS利用について、生徒自身がスケジュール管理を行うことは至難の業である。保護者と協力して有効活用のために学ぶ機会を設けていきたい。  <u>身だしなみ、挨拶、公共のマナーについての指導を地道に行ってきたが、目指すところまでの成果が見られない。</u>今後もさらに指導を継続する。  <u>解放(人権)教育のプログラムについては、高校3年生でキリスト教教育の「愛と奉仕」の実践とともに一つとなって生徒の心の成長、生きる力となって表を結んでいる。</u>          6年前にスタートした支援教育委員会は、教頭がコーディネーターを担い、担任、学年主任、スクールカウンセラー、養護教諭、サポートルーム指導員、生活指導部長、教務部長が構成員となり、校長のもとにチームで支援プログラムを検討する体制が機能している。          サポートルーム登校生徒のサポートについては、学校生活への取り組み、保護者との連絡、出席管理、教科担当との自習教材、配布物の確認等、<u>生徒ごとに細やかな配慮が要するため、たくさんの課題がある。</u>担任が一人で抱え込まないように、また、適切なサポートができるように互いのコミュニケーションを大切にしていきたい。  <u>本校のさまざまな行事は、宗教教育、解放教育とともに、生徒の人格形成に大きな影響を与える教育である。</u>生徒は、行事に主体的に関わる中で、人と繋がり、自分が責任を担い、仲間とともに何かを達成していくことの意味を深く感じて、<u>広い意味でのソーシャルスキルを身につけて行く。</u></p>
<p>III. 教育の実施体制の改善</p>	<p><b>生徒の安定的な人数確保のための取り組み</b></p> <p><b>1. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み</b>          広報、募集活動を強化し、受験生増を目指す。          (1)広報の充実 (2)全教員での取り組み          (3)入試対策室の充実</p>	<p>27. 変化する時代の中で、社会の課題に対して大阪女学院の特色を活かした取り組みを提案、アピールできていると思うか。</p> <p>28. 本校の広報活動、募集対策は適切だと思えるか。</p> <p>29. 募集・広報に積極的に関わることができたと思うか。</p>	<p><u>教職員全員で募集・広報にもあたっていくことができた。</u>昨年からは、専任教員全員が本校入学生の出身中学校の訪問を行い、生徒の現状報告と学校紹介を行った。本校の教育内容を現場の教師が紹介する良い機会となり、中学の先生方の適切な進路指導によって受験してくる生徒が少しずつ増えている。本校教員自身にも外から学校を見るよい機会となった。<u>オープンキャンパス、入試説明会にも教職員全員で臨み、受験生である小・中学生と応対する中で、本校の魅力を教員一人一人のこぼれで伝えることができた。</u>ただ、昨今の私学の受験事情は厳しく、<u>教職員の危機感</u>は募っている。生徒の成長第一、教育内容の充実を大事にして、運営を進めていきたい。</p>

	<p><b>図書館機能の充実と教員との連携</b></p> <p><b>2. 図書館機能の充実と中高教員との連携</b></p> <p>(1)蔵書整備 (2)利用教育 (3)教員との連携 (4)図書委員会活動 (5)その他 タブレット端末を活用した授業の推進</p> <p><b>教員の組織力アップのためのプログラムの充実</b></p> <p><b>3. 中学・高校教員の組織力アップ</b></p> <p>(1)建学の精神の学び (2)世界の変化や課題についての学び (3)支え合う組織づくり (4)他校との連携 (5)新しい学力観への対応 (6)大阪女学院大学・短大との連携</p> <p><b>4. ICT教育の推進</b></p> <p><b>5. 中学・高校教務のシステムの統一と展望</b></p> <p>教務、事務関係のサーバーの交換等、設備投資の研究、計画</p>	<p>30. 授業、進路指導において、図書館を有効に利用できたと思うか。</p> <p>31. 解放・生活指導等教職員研修会、チーム OJ、学院全体研修会、キリスト教学校教育同盟主催の中堅者研修、カウンセリング研究会等は、学校運営、教職員の集団づくりに役立っていると思うか。</p>	<p>全生徒への丁寧な利用ガイダンスが行われ、授業や課題などで、<u>十分活用できる充実した図書館であり、司書の助言も受けられるため恵まれた環境であるが、</u>生徒の自由な利用を別にすると、<u>一部授業で利用されているにとどまる。</u>今後の授業、レポート課題等における利用の研究が必要である。</p> <p>団塊の世代が順に定年を迎え、教職員世代交代が続く中、様々な形で目に見えない指導上の財産の継承が急がれる。ふだんの業務の中だけではなく、意識的に研修等を行い、また校外の研修会に参加して語り合う機会が必要である。しかし、<u>多忙を極めるため、なかなかその機会を作ることができないのが現状である。</u>「研修どころではない」美意識現実だからこそ、互いの悩みや募る思いをこぼさず伝え合う機会も必要である。</p>
<p>IV. 生徒支援</p>	<p><b>自己実現を促す進路指導</b></p> <p>(1)進路キャリアガイダンスの充実 (2)基本的学習習慣の確立 (OJダイアリー・ビッグシスター制度) (3)英語外部検定への対応 (4)新しい大学入試への対応 (5)併設大学・短大の特色を活かした進学指導 (6)協定校推薦枠の拡大</p>	<p>32. 各学年で行われる進路プログラムは、生徒の意識、意欲を高めるために役立っていると思うか。</p> <p>33. 3学期のセンター対策、私大、2次対策のプログラムは、大学入試直前のサポートとして成果を上げていると思うか。</p> <p>34. 大阪女学院短大・大学との連携は進んでいると思うか。</p>	<p>中高での<u>進路指導のプログラムは、生徒により影響を与えている。</u>また、<u>進路室からのさまざまな情報の発信は適切である。</u> <u>国公立入試センター、前期、後期入試をサポートする高3、3学期のプログラムは、対象の生徒を支え、成果を上げるために有効であるが、プログラムの持ち方には改善の余地がある。</u></p> <p><u>短大・大学との連携は、徐々に進んで来たが、数々ある入試のチャンスをはじめ、短大・大学の特色あるカリキュラム、少人数制の成果、奨学金制度、学内推薦の利点、さらには国公立、難関私立への編入実績や就職率近畿 NO.1 の実績など、大学・短大と密にコンタクトを取り、きめ細やかに伝えるシステムを構築する必要がある。</u></p>
<p>V. 学校危機管理</p>	<p><b>学校危機管理の強化</b></p> <p><b>いじめ、キャンパスハラスメントの防止と対応</b></p> <p><b>地震をはじめ防災への取り組み</b></p>	<p>キャンパスハラスメント防止への積極的な取り組み</p> <p>危険と危機、管理を区別し、事前・事後の対応について検討、緊急時における決定権順位の再確認を含め、文書化を目指す。</p> <p>35. 教職員組織はキャンパスハラスメント事象の防止に積極的に取り組んでいると思うか。</p> <p>36. キャンパスハラスメント委員会及び調査は、有効に機能していると思うか。</p> <p>37. 学校の地震をはじめとする防災への備えは進んでいると思うか。</p>	<p>指導者から生徒へのハラスメント(体罰を含む)の防止を目的として、生徒(家に持ち帰って保護者とともに記入してもらう形式)、及び専任教職員にアンケートを実施して4年目となる。<u>教員、コーチ等指導者は、今まで以上に緊張感をもって意識的な判断の下に生徒の指導にあたること</u>ができています。しかしこのアンケートは、生徒の立場から一方的に匿名で書かれるものであるため、<u>客観的な事実確認が難しい</u>という難点がある。<u>継続には、教職員同士の信頼関係と、「生徒の生命を守る」という共通の強い目的意識が必要である。</u></p> <p>地震を中心とした防災への備え、避難訓練等、<u>すべての取り組みが始まったばかりである。非常食、水の備蓄も行っているが、不足している。</u>今後は地域との協力を含めて計画的に進めていく。</p>
<p>VI. 教員の労務環境改善</p>	<p><b>教員の労務環境改善</b></p> <p>1週1日の研修日を継続(2年目)をはじめ、教員の多忙を緩和し、働きやすい職場にしていくよう努力する。</p>	<p>38. 一週一日の研修をはじめ2年目になるが、労務環境の改善は進んでいると思うか。</p>	<p><u>1週1日の研修日制度は有効であるが、当然のことながら、生徒教職員全員で一斉に取る休日とは違うので、教職員間の連携、クラス・学年間についての情報共有が不可欠</u>となる。また学年や教科、委員会で臨時に会議をすることが難しく、定例の会議の回数も限られたものになるので、計画性と工夫が必要である。<u>メリット、デメリットをよく弁えて、この制度を活かしていきたい。</u></p>

## 2016年度 関係者評価のまとめ

学校関係者評価委員会 2016年9月8日(木)16:00～17:50

### 【2015年度学校自己評価の形式・内容についての説明】

項目1. ミッションステートメント、育むべき生徒像については、既に共有している学院全体の理念である。

項目2. 中期計画については、2014～2019の学院の中期計画及び2014年度の事業計画を簡潔にまとめた。

アンケートは、生徒、保護者対象12月実施、教職員対象2月実施、それぞれ別の内容で行った。

項目3. 本年度の取り組み内容および自己評価については、2015年度事業計画の具体的な取り組みを指標として、自己評価を行った。

また委員会メンバーには、2016年6月に大阪女学院高校が国際バカロレアの候補校に認められたこと、2018年入学生から英語科に国際バカロレアコース設置を目指し、専任教職員が教員資格取得のため研修に次々出かけている現状、このことが他のコースの授業の探究型、アクティブラーニングを進めていく契機になっていくことを目指していることを説明した。

その後、有澤慎一委員長司会のもと、アンケート結果について→生徒→保護者→教職員とそれぞれ順に見ながら、意見交換がなされ、管理職が質問に答える形で進められた。

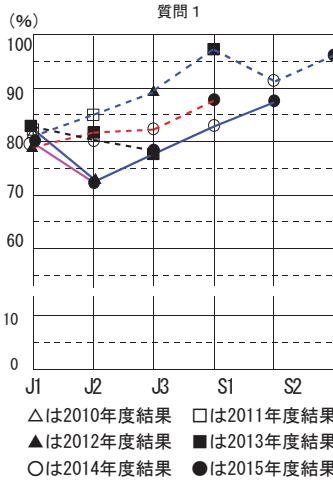
生徒のアンケート結果については、概ね例年どおりの傾向が見られるが、人権学習のテーマとしてあげられている「貧困」は、すでに取り組んでいるアフリカや南米の里子支援だけでなく、日本の子ども、若い女性に切実なテーマとして学びを進めていることについて関心が寄せられた。教会関係者の間でも今注目されている日本各地の「子ども食堂」や、本校のヘル会が持つ奨学金制度の運用についてなど、身近な問題として今後でも取り組んでもらいたいという激励の言葉をいただいた。また、昨年から本校の課題となっている「挨拶」について、マナーだけではなく、防犯の意味でも、指導を工夫しながら継続して改善に取り組む必要があるというご意見をいただいた。

保護者のアンケート結果については、保護者が学校の教育に理解をもち、協力的であることは学校にとって本当にありがたいことであり、殊に年々WMC(男性保護者の会)への加入が増え、父親の教育への関心が高まっていることに注目された。子どもの学校の保護者同士が、親しく、楽しんで学校行事に参加している(卒業後も付き合いが続いている場合もある)ことは、学校と保護者との連携を深めていく上でも、望ましいことであると評価をいただいた。一方で、学校生活や進路への親の不安が大きく、子離れが難しかったり、適度な距離感で我が子を見守ることが難しい場合も増えていることへの懸念も話し合われた。

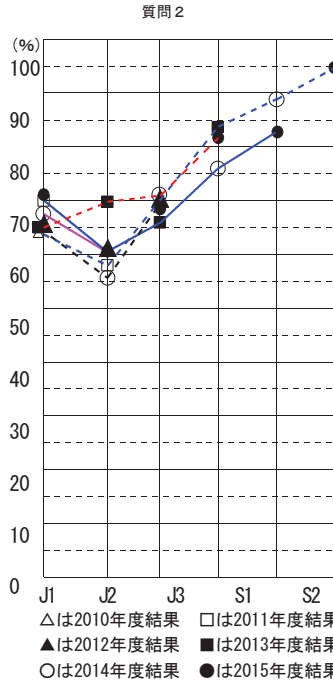
教職員のアンケート結果については、もっぱら労務環境に話題が集中した。帰りが遅く、一般的にどこの学校でも疲れ果てている教員たちが多く聞かすが、本校はどうかという質問に対して、本校でも教員の帰宅時間の遅いことは問題になっているとお答えした。クラブ活動、不登校や発達障害など生徒・保護者への個別の対応、相談、クレームなどへの対応に時間が取られることはもちろんだが、最も中心的な授業への保護者、生徒からのニーズは高く、それに答え続けていくために時間はいくらあっても足りないのが現状である。生徒を主体とした(受け身ではなく)授業、その他の活動を実現していくためには、「ファシリテーターとしての教師像」を構築していくことが、今求められているアクティブラーニング、探究型の学びに繋がるのではないかと。殊に本校は女子校であることから、女性教員が結婚、出産後も仕事を続けていきやすい環境を作っていく必要があるというところまで話が及んだ。そのほか、ハラスメント委員会の相談委員の研修制度の必要性、中学生・高校生へのSNSについての制限、指導方法について各々の立場から幅広く意見交換がなされた。

意見交換やご助言を傾聴しながら、学校関係者評価委員会のメンバーのみならず、客観的で幅広い視野をもって、生徒、保護者、教職員を見守ってくださっていることが本当に心強く、支えられている思いを深くした。殊に教職員の労務環境についてかなりの時間を割いて話し合ってくださいだったことは、日々、教育に励む現場教職員にとって何よりの励みであった。限られた時間であったが、有意義な時間となり感謝である。

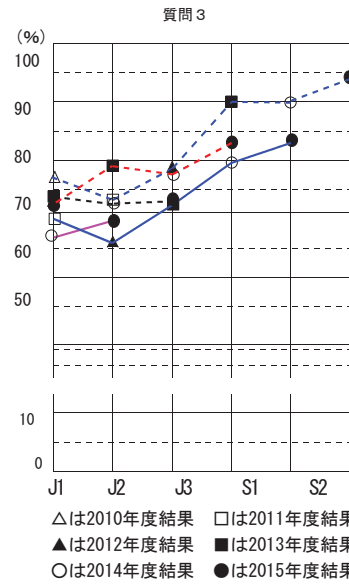
2015 年度学校自己評価生徒アンケート結果グラフ



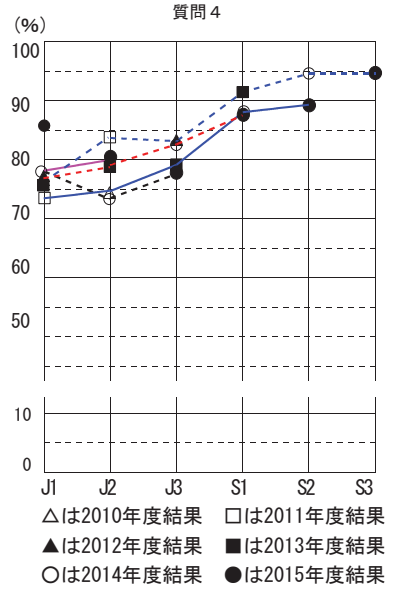
質問 1. 本校はキリスト教主義の学校として、礼拝や宗教行事等の様々な機会を通して、「すべてのものは、それ自身で存在しているのではなく、神様によって創造されて存在していること」「あなたを含め、人間一人ひとりが、神様にとって大切な存在として愛されていること」を皆さんに伝えようとしています。そのような学校の方針を理解していますか。



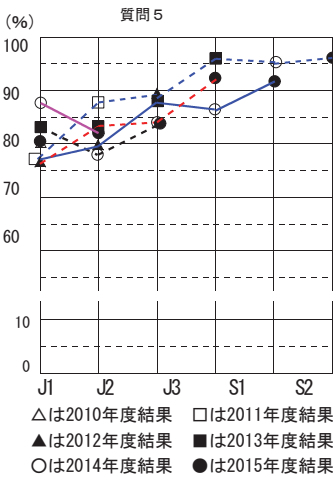
質問 2. 朝の礼拝(チャペル・クラス)によって、自分の生き方や他者との関わりかたについての考えが深められていると思いますか。



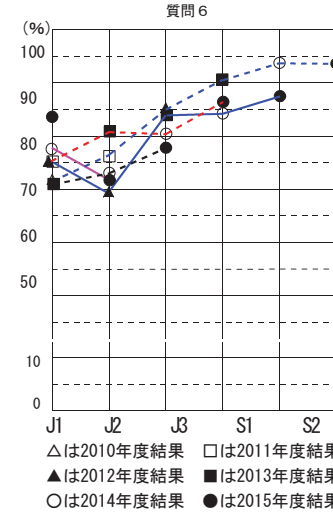
質問 3. 宗教行事(修養会・伝道週間・訪問行事等)によって、自分の生き方や他者との関わりかたについての考えが深められていると思いますか。



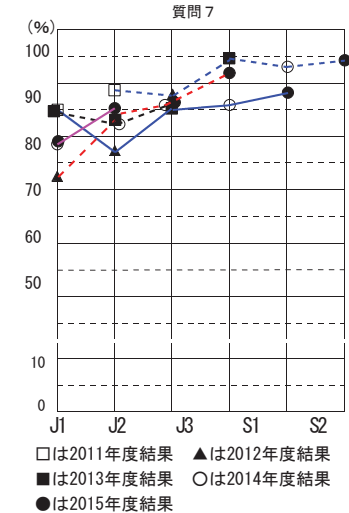
質問 4. 本校の解放(人権)教育は「人権を尊重(自分を生かし、他の人を生かすこと)できる人間の育成」を目的として行われています。そのことをどの程度理解していますか。



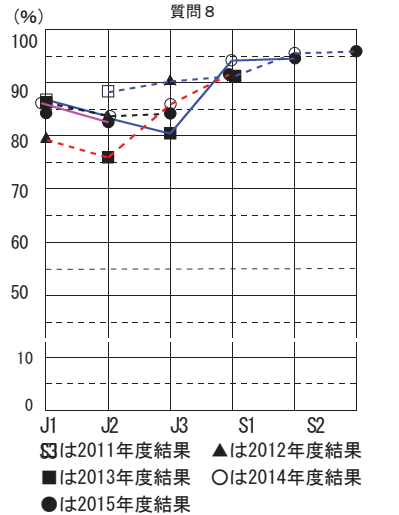
質問 5. あなたは、お互いの個性を尊重し、違いを認め合うことができるようになったと思いますか。



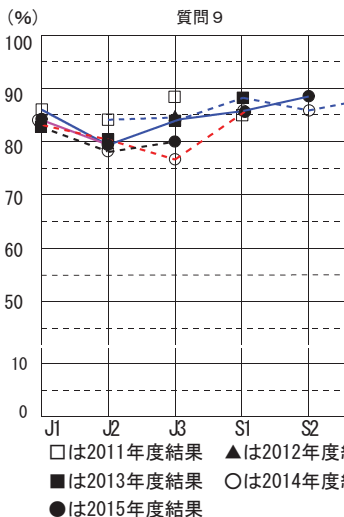
質問 6. 学年の解放HRを中心に行われた解放(人権)教育のテーマを通して、知識と人権感覚が身についたと思いますか。



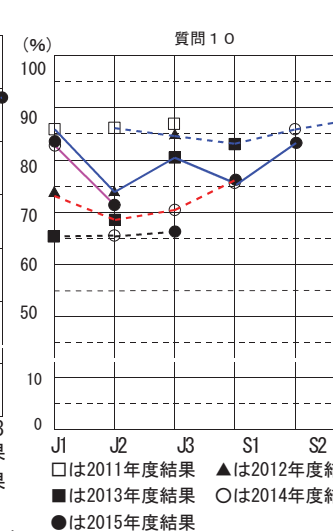
質問 7. 本校が生活指導において大切にしている「自由」-「自己中心的な自由」ではなく「本当の自由」-について、自分は理解していると思いますか。



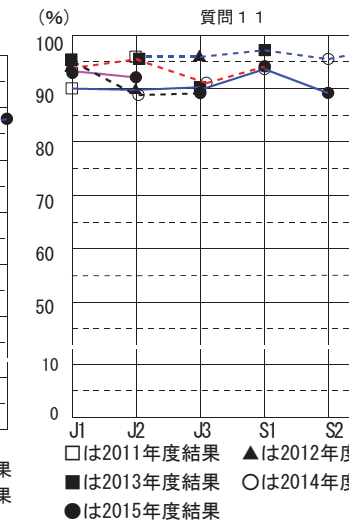
質問 8. 本校ではみなさんが社会のルールや公共のマナーを身につけることを大切にしていますが、自分はどの程度出来ていると思いますか。



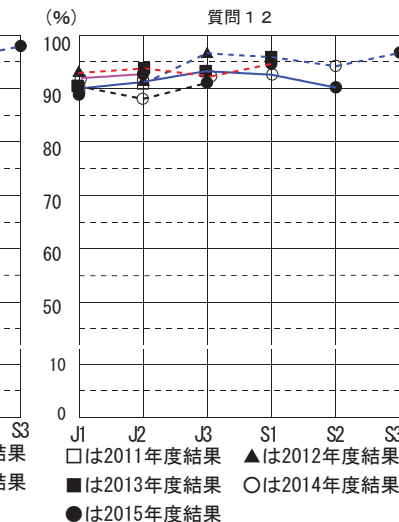
質問 9. 本校では、学校での基本的な生活習慣(遅刻、片づけ、身だしなみなど)を大切にしています。みなさんは自分でどの程度出来ていると思いますか。



質問 10. 本校では、「心に届くコミュニケーション」を目標としてあいさつ運動を行っていますが、その取り組みはよいと思いますか。

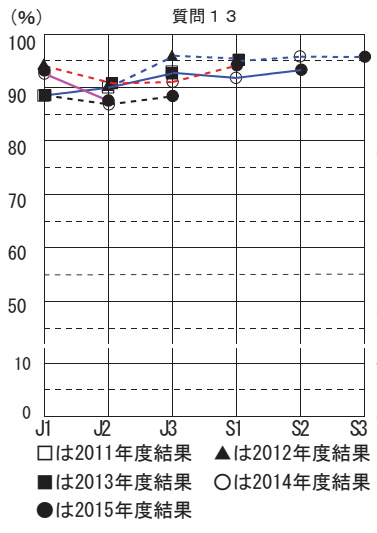


質問 11. 本校では、生徒会主催の体育大会・文化祭が活発に行われていますが、生徒同士の関わりを深めることに有意義であると思いますか。

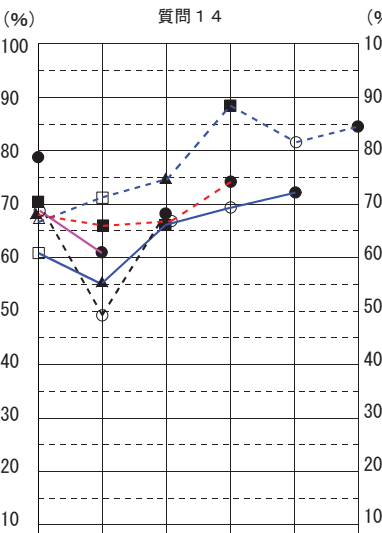


質問 12. 学年が実施主体となって行われる修学旅行、スキー学習(中1)、合唱祭、水泳大会等の学校行事は、友達との関わりを深め、クラスの一体感を強めることに有意義であると思いますか。

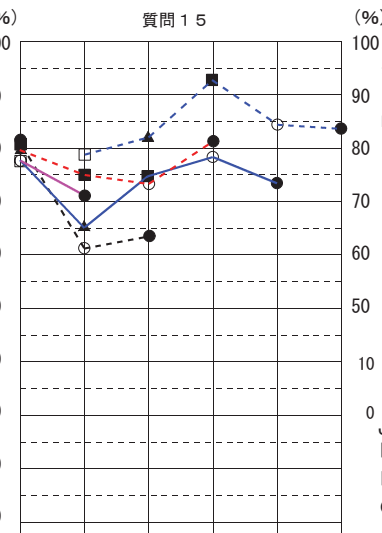




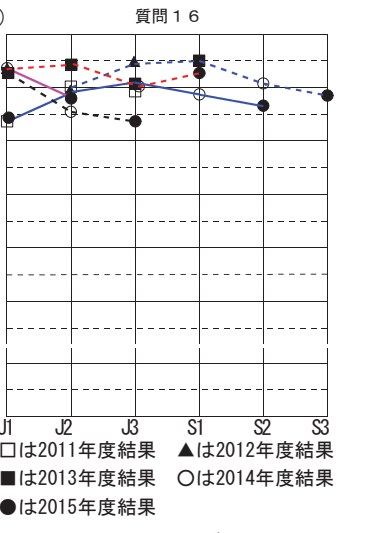
質問 13. あなたにとっての学校生活は、楽しく充実していると思いますか。



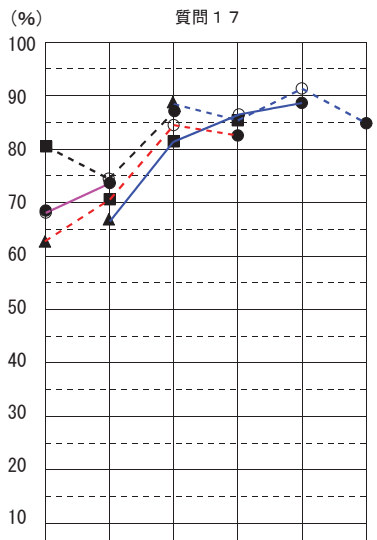
質問 14. 本校の先生は、生徒の悩みの相談によくのってくれていると思いますか。



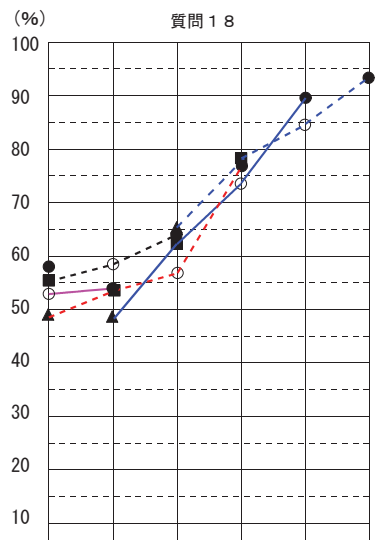
質問 15. 本校の先生は、生徒が充実した学校生活を送れるよう心がけて指導していると思いますか。



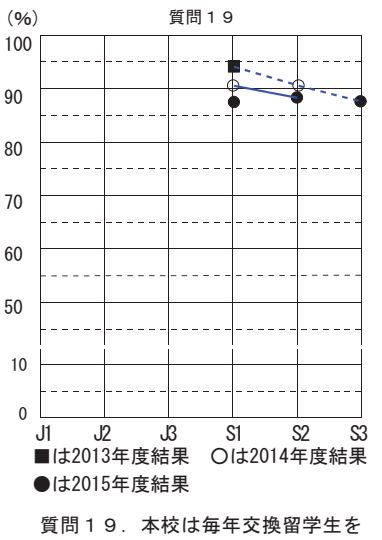
質問 16. 本校のクラブ活動は、活発な方だと思いますか。



質問 17. 【中学】高校には文系、理系、英語科があります。高校へ進学するときの学科・コース選択について自分はよく考えている（よく考えた）と思いますか。/高校でのコース選択(科目選択)について、自分はよく考えた(考えている)と思いますか。



質問 18. 高校を卒業したあとの進路について自分はよく考えた(考えた)と思っています。



質問 19. 本校は毎年交換留学生を受け入れています。留学生が本校で生活することにより、国際理解が深められていると思いますか。